



Aesthetic Life - Automatic

エステティック・ライフ - オートマチック

『ROME automatic』 ドローイング: Amikam Toren / テキスト: Peter Stickland / 訳: 平田星司

展覧会企画・構成: 中根 秀夫 平田 星司

アミカン・トーレン / ピーター・スティックランド ウエダ リクオ 小林 潔史 鈴木 智恵

2015年4月6日(月)~4月19日(日) 水曜(8日, 15日)休廊 11:30~19:00 (最終日は17:00まで)

トークセッション 11日(土) 17:30~ 鎮西 芳美 (東京現代美術館学芸員)
 18日(土) 17:30~ 李 美那 (神奈川県立近代美術館学芸員)

トキ・アートスペース 東京都渋谷区神宮前 3-42-5 サイオンビル1F tel. 03-3479-0332



エスティック・ライフ - オートマチック

『エスティック・ライフ - オートマチック』展は、2010年に開催された中根と平田、二人による展覧会『エスティック/ライフ』の第2回展として企画をしました。

イギリスのアーティスト、アミカン・トーレンのドローイングに詩で応えたピーター・スティックランドの『ROME automatic』という一冊の本を起点にして、国際的な舞台で活躍するウエダ リクオ、新進気鋭の版画家鈴木智恵、そして1994年に30歳の若さで亡くなられた小林潔史の小彫刻作品と、年齢も出自も使用するメディアも異なるアーティストを強い意志でつなぎ、いまだ無いエスティックな展示空間を構成します。

展覧会タイトルエスティックという言葉は、「美の」あるいは「審美的な」などと訳されます。私たちは「aesthetic」という英語の語感と、その訳語との間の微妙な差異に着目し、日本語で意味がこぼれてしまうエスティックな日常を体感し、そのエスティックな日常に喜びを持つこそが「美術」の本質であり、あるいは逆に、その過程から派生する「美術」こそが、混迷する私たちの日常を救済するほとんど唯一の手段であると考えています。

多様な現実を抱える社会の中で、私たちに過去や未来と多角的に思考的なコンタクトを取る「リニアではない」もの考え方が求められています。このような視点で捉えられるエスティックな日常を自らの力で獲得し、他者とともにエスティックな喜びを共有することが可能な世界を構築し、その世界をエスティックに生き抜くこと…。

今回の私たちの展覧会で、その美術の形を提示したいと思います。

[出品作家紹介]

中根 秀夫 Hideo Nakane (企画者)

1992年 東京芸術大学美術学部絵画科日本画学科卒業
1993年 プリティッシュ・カウンスルの奨学金を取得、渡英
1995年 The Slade School of Fine Art 大学院絵画科修了 イギリス国内で展覧会に参加。
1996年 帰国後、厚木市文化会館主催の個展、VOCA展97(上野の森美術館)、The London Groupのメンバーとしてロンドンの展示会、国内外でグループ展等々参加する。2004年からはGalerie SOLで継続的に個展を開催する。2010年 平田星司との二人展(トキ・アートスペース)、14年 池内晶子との写真展(Café & Galería PARADA)、かみむら泰一(Sax 即興)とのDVD製作など、企画性の強いプロジェクトに携わる。

平田 星司 Seiji Hirata (企画者)

1992年 東京理科大学理学部第二部物理科卒業
1994年 プライム大学美術学部絵画科卒業 首席
1996年 The Slade School of Fine Art 大学院絵画科修了

South Bank photo show 1995 "Home Truth"(Royal Festival Hall)3席受賞等イギリス国内外で展覧会に参加。1997年帰国後、アートプログラム青梅2009「空間の身振り」(旧青梅織物工業協同組合)他、藍画廊やGalerie SOLなど都内を中心に個展、グループ展多数。14年 倉重光則との二人展(ギャラリー箱 三浦市)。13年には「香港 M+」の企画による国際展「Inflation!」の出品作家(Tam Wai Ping)の制作コーディネーター等も行う。

アミカン・トーレン Amikam Toren

60年代終わりにイスラエルから渡英しアーティストとしての道を歩み始める。絵画のみならず立体、ビデオアートなど、表現の可能性を追求する作品群は、時にトートロジカルなユーモアを携えながらも、破壊を伴う喪失の概念が表出しており、見るものに底知れぬ深い謎を残す。90年代当時のイギリスは景気の低迷が政治的にも転換期にあり、美術界ではアミアン・ハーストを中心とする若い作家たち、YBAs (Young British Artists)がイギリス美術の刷新を求めて、メディアや巨大な資本家を巻き込んで非常に勢いがあった時代だったが、彼もその傍らで地道に独自の探求を続けている優れた作家の一人である。近年アート・モダンが作品を收藏し、2013年、アメリカで初の大規模な個展《"Of the Times" and Other Historic Works》がサンフランシスコで開催された。

ピーター・スティックランド Peter Stickland

英国建築協会附属建築専門学校(AAスクール)で建築を学んだ後、1976年からパフォーマンス集団The Theatre of Mistakesで活動。英国内外で公演を行う。その傍ら、作家、詩人、インスタレーション・アーティスト、77booksのエディターなど多才な顔を持つ。また1992年から2013年までチェルシー・カレッジ・オブ・アーツの学長として教鞭をとる。作家として18冊の作品を出版しており、小説、叙情詩、他の芸術家とのコラボレーションなど創作的で野心的な著作も多い。その特徴は伝統的な学究的アプローチを避け、むしろコラージュのようにテキスト間を自由に呼吸しながら変換や飛翔を促すことがオリジナルとしての魅力であり喜びであることを示している。

ウエダ リクオ Rikuo Ueda

1973年から3年間、国外を放浪し帰国後美術を始める。1997年に参加したデンマークのアーティストインレジダンスを期に風を使った作品制作を始める。

2000年 Wind drawing / オーフオクスンストフォーリン / デンマーク
2002年 Off-site Projects / IKON / バーミンガム / イギリス
2008年 Performance and performativity in Japan today / ジュネーブ現代美術センター / スイス
2015年 Hans Platschek-Award 2015 / 授賞 / カールスルーエ / ドイツ 等個展、グループ展多数。

小林 潔史 Kiyoshi Kobayashi

1988年 東京芸術大学美術学部彫刻科卒業 安宅賞受賞
1990年 東京芸術大学大学院美術研究家修了
1990～93年 東京芸術大学美術学部彫刻科非常勤講師

約3センチの球体上の世界はワックスで作られた原型から鋳造されたものである。作品は大学院在学中の1989年から94年9月までの5年間ほぼ毎日休みなく制作され、その数は5878個という驚異的な数になった。1994年12月26日逝去。享年30歳。1995年にギャラリー山口(銀座)、2003年にYAMAMOTO gallery(現・山本現代)で追悼・回顧展を開催。

鈴木 智恵 Tomoe Suzuki

2011年 武蔵野美術大学通信教育課程版画コース卒業 卒業制作優秀賞
2012、14年にガレリア・グラフィカbisにて個展、日本版画協会他公募展およびグループ展等に多数参加。
現在日本版画協会準会員。

2011年 第88回春陽展・奨励賞
2012年 第8回大野城まどかびあ版画ビエンナーレ準大賞・大野城市長賞
2013年 第12回南島原市セミナーヨ現代版画展・長崎県知事賞、アワガミ国際ミニプリント展優秀賞
2014年 第13回南島原市セミナーヨ現代版画展・長崎県教育委員会賞、第91回春陽展・奨励賞、第3回FEI PRINT AWARD 大賞、第59回CWAJ現代版画展・選考委員賞、第82回日本版画協会版画展・B部門奨励賞と受賞歴多数。長崎県南島原市ありえコレジオホール、阿波和紙伝統産業会館に収蔵。

エスティック・ライフ - オートマチック

日時 2015年4月6日(月)～4月19日(日) 観覧無料
11:30～19:00(最終日は17:00まで) 水曜(8日、15日)休廊
会場 トキ・アートスペース 東京メトロ銀座線外苑前駅下車3番出口より徒歩5分
〒150-0011 東京都渋谷区神宮前 3-42-5 サイオンビル1F tel. 03-3479-0332

関連企画 現在活躍中の学芸員お二人をお迎えしてトークセッションを行います。
予約不要。各回ともに1時間程度。

4月11日(土)17:30～ 鎮西 芳美 (東京都現代美術館学芸員)
4月18日(土)17:30～ 李 美那 (神奈川県立近代美術館学芸員)

展覧会の詳細は <http://hideonakane.com/info/AestheticLife2015.html>
お問い合わせは aestheticlife@hideonakane.com (中根)

